

## 平成28年度第2回野菜需給・価格情報委員会消費分科会の意見概要

### 1 日時

平成28年10月31日（金）13:30～15:30

### 2 場所

独立行政法人農畜産業振興機構 南館1階会議室

### 3 概要

事務局から「最近の消費・輸入動向等について」（資料1）を説明の後、秋冬野菜の需要・消費動向の見通しについて、意見交換。その概要を小林座長が取りまとめ、各委員の了承を得た上で、11月10日開催の平成28年度第2回野菜需給・価格情報委員会に報告することとなった。

平成28年産秋冬野菜の需要・消費動向の見通し等に関する委員からの意見は以下のとおり。

#### ○ 秋冬野菜 主要6品目の今後（11～3月）の需要見通しについて

##### ① 冬キャベツ

- 今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでており、鍋物需要ではくさいが増加すると見込まれ、キャベツの増加は考えづらい。
- また、天候不順による高値継続予測で、買い控えが懸念されるが、簡便化ニーズの高まりでカットキャベツが増加する可能性はある。

##### ② 秋冬だいこん

- 今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでており、鍋物需要の増加の可能性も。ただし、鍋物のメニューに変化が無いとため、新たなヒット商品の開発、-halfカット等適量目の拡販がポイント。
- 9月の長雨と日照不足で生育が遅れている。12月になれば関東近郊が出回ってくるが、他の品目につられて高値になり買い控えが懸念される。

##### ③ たまねぎ

- 今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでており、シチュー等のホットメニュー需要での増加を見込む。
- 主産地の北海道産は、台風の影響（作柄は良、輸送は振り替え等で対応）は小さくなっているが、貯蔵物の品質劣化が懸念され、また、値頃品であるバラ売り・均一規格が不足する懸念があり、小玉規格限定で輸入調達も。

#### ④ 秋にんじん

- 今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでており、シチュー等のホットメニュー需要での増加の可能性はあるものの、天候不順による高値継続予測で、買い控えが懸念される。値頃品に関しては輸入調達も。
- 例年11月頃から関東近郊産地が出回るが、今年は生育が悪く、病気も発生しており出荷数量の減少が見込まれる。

#### ⑤ 秋冬はくさい

- 今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでており、鍋物需要での増加を見込む。
- なお、品薄は12月まで続く可能性もあるが、天候不順による生育遅れは回復しつつある。

#### ⑥ 冬レタス

- カットサラダ等、簡便化ニーズの高まりは好材料。ただし、去年は暖冬でサラダ需要が高かったが、今年の気温は、ほぼ平年並か低いとの予報がでているため、楽観視は出来ないことから、需要は昨年並みと見込む。

○ 特にお聞きしたい論点

- ① 8月以降の台風の影響や日照不足により、国産野菜が小振り、キズ・割れ等の下位等級品が増え、上中位等級の割合が減少・不足する中で、卸売市場の入荷量が減少して野菜価格が高水準となっていますが、
- ・ 卸売市場等からの調達において、下位等級品の取り扱いを増やしていますか。また、こうした下位等級を売る際にどのような工夫をしていますか。
    - 品質における下位等級品の取扱いは増やしていない。ただし、にんじんを通常のLサイズからMサイズへ変更するなどの規格変更は実施している。小さいサイズへ変更する際には1本から3本袋にするなどで値頃感を出している。
    - 下位等級はあくまで「値頃品」である為、通常品比較で、「同価格で増量」か「同量で3割安」を基準に商品開発している。
    - 取り扱いを意識しなくても、自然に下位等級品の割合が高まっている。品質が悪い物は売場には出せない。
    - 現在は、農産物の秀品率が上がり、市場には下等品が出回っていない。集荷する卸売会社だけではなく、出荷者（生産者）も農産物の管理に苦勞をしている。
    - 販売先の出荷規格に合わせた出荷になるので、個別に品質確認を行い、取り扱いの有無を決定している。
    - 産直産地との契約がメインであり、もともと、等級、規格については大小込みの規格で販売している。
  - ・ また、売場において値頃感をだすための対応（輸入野菜、国産の代替野菜、ホールから1/2カットにして販売する等）や、カット野菜及び冷凍野菜の販売促進など、どのような工夫をしていますか。
    - レタス・大根・キャベツ等は1/2カット等での販売を中心にするなどで対応。また、値頃感をだすため、中国産のにんじん等を調達している。
    - 価格水準が高い時は、「量目を調整（1/2切等）」、「代替品（カットサラダ等）拡充」を実施する。それでも値頃が出ない場合は輸入野菜の調達に踏切る。冷凍野菜は現在研究中で、国産ニーズが高いことから、扱い店舗を拡大する計画である。
    - カット野菜・冷凍野菜の売場には「野菜高騰中でお買い得」といった販促物を貼付。
    - キャベツは1玉供給を目差す。カットはコスト高で顧客からクレームがでる。
    - 学校、保育園、病院等は国産品を納品。業者（相手様）との対話により中国産を納品。
    - 市況高騰で消費者には冷静な対応を呼びかけている。
    - 豊作の野菜を上手に使う工夫。葉物類は無駄なく使い切る工夫を呼びかけており、ご好評いただいている。
    - 台風被害にあった産地の応援企画を実施して好評。

② ①の販売方法の工夫に対する消費者の反応はどうか。

- 使い切れる量目へのシフトや、料理用途により使い分けるなどの反応が見受けられる。
- 不作でも輸入品を扱わない姿勢は評価されている。
- 消費者ニーズから値頃感を出す為の工夫をするわけであり、概ね好評だと認識している。
- スーパー等も品薄のため、お客様も買い回っている。
- 世帯あたり的人数が減少しているため、1/2カットで販売しても自然に受け入れられており、特に反応はない。

③ 今年の台風は、野菜の主産地である北海道に連続して上陸するなど、野菜に大きな被害がでております。今後も、北海道への台風上陸を始めとして、異常気象による野菜供給への影響がますます懸念されますが、こうした状況において、野菜を安定的に調達・販売を図る上で、販売サイドとして、こういった対応方向が考えられますか。

- 別地区からの新規調達及び生産依頼を進めると共に、代替品となりうる商品（レタスに対しリーフ・ロメインレタス等）開発、冷凍野菜の開発等を検討している。
- 本来は、10月中旬から12月上旬までは、関東近在産の農作物がたくさん出回り安い時期であるが、今年は特に異常気象であったため出遅れている。市場からの供給が100%に近い小売の場合は、気象変動による影響を大きく受けるため、今後も迅速な情報収集が必要である。
- 迅速な情報収集。被害が大きい場合は輸入品の取り扱い。
- 不作時の集荷については、豊作時にどのくらい量を取れるかできる。日ごろから産地との信頼関係が重要。豊作時や市況低迷時に安定した価格で取引してきたので、優先出荷をお願いしていただいている。
- 過度な選別を廃すとともに、輸送コストも削減して生産者の手取りを上げる工夫。
- 産地又は消費地における中間貯蔵及び長期貯蔵を可能とする施設の必要度が今回のケースを含めて、緊急性をもった対応が必要になっている。
- 最終販売側で特に加工品目での配分変更や品目変更への対応が必要になっている。
- 輸入野菜は、残留農薬等の面で信頼ができないので、輸入数量の扱いを大きく増やすことはリスクが伴う。国産での調達を模索する。

④ 主要6品目以外の野菜で、今冬において注目すべき野菜はどのようなものがありますか。

- ブロッコリーは、サラダ、シチューなど料理用途が広いことから年間通して需要増加。
- さつまいも（安納芋、シルクスweet）、里芋。さつまいもの品種の違いによる食べ方を提案する必要がある。
- にら、小松菜、水菜などの葉物野菜の消費を呼びかけたい。
- サトイモ、ごぼう、レンコンなどの正月野菜の消費を呼びかけたい。
- 西南暖地の果菜類、まめ類は気象災害を受けていないので順調な出荷が見込まれて

いるため、消費を呼びかけたい。

- 胡瓜・トマト・ミニトマト・葱類の主力野菜において供給減が予測されるため、現状からでも対策が必要と考える。
- 鮮度に強みがある産直野菜（きゅうり、トマト、ピーマン、小ねぎ等）を消費者に売り込みたい。